

# 1984年核データ研究会 準備委員会 第2回会合議事録

日 時 昭和59年6月7日(木) 13:30~17:30  
場 所 原研東海研研究1棟第1討論室  
出席者 五十嵐(委員長, 原研)  
梶山(東北大), 大竹(富士電機), 中沢(東大), 浅見, 菊池, 松浦,  
水本, 中川(原研)

## 配布資料

1. 第1回会合メモ
2. ポスターセッションテーマ案(吉田)
3. Dr.MethaとDr.Schmidtへの手紙
4. First Circularのコピー

## 議 事

1. 前回会合メモの確認  
前回会合メモ(資料1)は運営委員会に提出したもの。運営委員会では、「サーベイランスの核データというテーマの意味があいまいだ。」、「テーマの数が多すぎる。」などの意見が出された。
2. 外国関係
  - 多分IAEAのMethaは出席できる。
  - First Circular(資料4)をバングラディッシュ, マレーシア, ニュージーランド, タイ, パキスタン, フィリピンに出した。いまのところ返事はどこからも来ていない。
3. プログラム  
前回作成したテーマの案をもとに, 議論し, 最終的には別添のプログラム案を作成した。  
なお, 外国からの参加者の話しは11月13日の午後とするが, 返事が来ていないのでプログラムを決められない。13日の分は外国からの参加者の様子を見て, 9月上旬ごろ決めることとした。

#### 4. 使用言語について

13日は英語，14日と15日は外国からの参加者が少ない場合は日本語とし，誰れかが彼らの側で通訳する。ただし，トランスペアレンシーは英語で作成する。また proceedings も英語とする。

#### 5. 会場について

原研東海研のABC会議室を主会場とする。ひかえ室として第3会議室を使用する。ポスターセッションの会場は研究1棟の会議室とする。ただし，最終的には核データセンターの方で検討し決定する。

#### 6. 今後の予定

- 1) 今回決めたプログラムに従って，核データセンターが各世話人への連絡を早急に行なう。
- 2) 6月末：世話人からの返事の〆切り
- 3) 7月10日：次回準備委員会会合
- 4) 7月20日：プログラムを運営委員会に提出
- 5) 7月末：国内へ第1回サーキュラー，国外へは第2回サーキュラーを出す。
- 6) 9月上旬：最終プログラム決定
- 7) 9月中旬：国内へ第2サーキュラー（〆切は10月20日位とする）。第2サーキュラーで出欠および宿の件について問い合わせる。

1984年 核データ研究会 プログラム案

(11月13日の分は国外からの参加者の様子を見て9月上旬ごろ決める。)

	11月14日(水)	11月15日(木)
9	9:15 予定時間*	9:15 予定時間*
昼 (午)	核燃料サイクル核データ(松浦)	核分裂現象 (梶山)
	核データ利用面からのレビュー(松浦) 20+5分	断面積の測定(平川) 40+20分
	U-Pu サイクルでの核種生成量評価(内藤)40+15	断面積の理論計算(大沢) a
	— 休 け い — 15	— 休 け い — 15
11	トリウムサイクル核データ(木村) 40+15	遅発中性子(岡野) } のいずれか1つ b
12	(ポスターセッションの説明) 15	トピックス(中込) } aとbで 60+30
	昼 食	昼 食
13	ポスターセッション(吉田) 日本で利用可能な核データファイル	13:00 特殊分野における核データの利用(中沢)
14	13:45 核データの評価 (菊池)	セーフガード(松浦) 40+20
午 (午)	ガンマ線生成核データの評価(肥田) 40+15	照射損傷 (中沢) 40+20
	共分散の評価(村田) 30+15	サマリートーク(大竹) 30
16	— 休 け い — 15	
17	標準断面積(松延) 30+15	
	核データ評価のトピックス(菊池) 40+20	

( )内は講演予定者または調整担当者

\*予定時間は講演時間+討論時間